

*** 記載上の注意事項**

- の記入枠に記入する文字は、OCIR(光学式文字図形読み取り装置)にて直接読み取りますので、汚したり、穴を開けたり折り曲げたりしないように気をつけてください。
- 記入枠の部分は必ず黒のボールペンを使用し、枠からはみ出さないよう、大き目の文字、カタカナ、アラビア数字で明瞭に記入してください。

「労働保険番号」欄
間違えないように注意して、忘れずに記入してください。

「事業場の名称」欄
カタカナの濁点は、同一枠内に記入してください。労災保険届出書式と混同しやすいので注意してください。
※注意! ㊦→○、㊧→×
名称が長くて書ききれない場合は下段に記入してください。

「工事名」欄
名称が長くて一行で書ききれない場合は、下段に記入してください。

「労働者数」欄
事業場人数を記入してください。
※事業場・・・工場、店舗など一定の場所で継続的に作業を行っている一団をいう、ひとつの事業場であるかどうかは同一場所にあるかどうかで判断し、分散している場合は、原則別個の事業場と考えます。

「休業見込期間」欄
医師、被災者、会社などと相談のうえ、被災者が再び出社可能となるまでの期間を記入してください。ケガが治癒するまでの期間とは異なります。混同しないように気をつけてください。

「報告書作成者職氏名」欄
死亡災害や重傷の場合、労働基準監督署が事業場に問い合わせる場合がありますので、記入もれがないよう注意してください。

「事業者職氏名」欄
労働者を直接雇っている事業主の名前と印を記入してください。労災保険の届出書式とは異なりますので、誤って代理人の名前を記入することがないように気をつけてください。
また、建設業の場合、間違えて元請の名前、印で提出されることがあります。記入の際、注意してください。

労働者死傷病報告

式第23号(第7条関係)

労働者死傷病報告の工事に従事する労働者の労働者が被災した場合、又は人の労働者が被災した場合の報告

81001 40101123456789 電気業

フクオカマルマルカブシキガイシャ

福岡〇〇株式会社

動力設備点検修理工事

福岡県福岡市博多区×〇〇-〇-〇

博多・港・中央建設共同企業体

810-8988 53 7100122 1100

フクオカ サブロウ 5221122

福岡 三郎 電気 経験期間 15

即死 頭部骨折 前頭部 福岡市博多区

製鉄会社(丙社)の電気設備の修理を担当する甲社に所属する被災者は災害当日、丙社圧延工場の動力設備を修理・点検する作業に従事していた。被災者がホイストクレーンの配電盤を調査中に丙社の作業員が天井走行クレーンを走行させた。天井走行クレーンが4000トンプレス付近を通過した時、ホイストクレーン上で点検をしていた被災者を押し、被災者は墜落して死亡した。

略図(発生時の状況を図示すること。)

報告書作成者 労働 太郎

事業者職氏名 福岡〇〇株式会社 代表取締役 博多 一郎

平成〇年 〇月 〇日

労働基準監督署長 福岡〇〇株式会社

受付印

(製品番号 649005) 16.3

「事業の種類」欄
日本標準産業分類の業種を記入します。不明な場合は、一般的な名称で記入してください。
(例)菓子販売業、菓子製造業

「親事業場、元方事業場の名称」欄
記入もれが多いので忘れずに記入してください。建設業でJVの場合、〇〇・〇〇・〇〇建設共同企業体などと記入します。長い名称の場合は「発生状況および原因」の欄に記載してもかまいません。

「派遣先事業場名、提出事業者の区分」欄
被災者が派遣労働者の場合はこちらに記入します。派遣元・先両事業場に提出義務があります。派遣先事業場名を記入のうえ「提出事業者の区分」欄には該当する項目のいずれかに○印をつけてください。
まずは派遣先が所轄労基署に提出し、派遣先は提出した(写)を派遣元へ報告し、派遣元は派遣元の所轄労基署へ提出してください。

「経験期間」欄
一般的事務職の場合は、勤続年数が経験期間として差し支えありません。専門工事業種やドライバー等は他の会社に所属していた年数も通算して経験年数となります。注意して記入してください。

「被災地の場所」欄
被災した場所の所在地を記入してください。
会社の所在地と被災地が違う場合、原則的には次のように記入します。
建設業—建設現場の所在地
運送業—被災地の所在地を記入
派遣労働者—派遣先事業場の所在地

「略図」欄
丁寧に分かりやすい図を記入してください。